

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

月刊ステージ・アップ

up

'93

新春

号【1・2月合併】

無料

1月10日に
さかわ
ニューイヤークンサート開催



殿下橋と新殿下橋



いまを話す

「芸術村あすなる」代表、渡辺礼子さん
土に花が咲くように
川崎に自植えの音楽を

かわさきニューイヤークンサート 1月10日に開催

いまを話す

■随想 ■陸と海に翼広げる地の利 高橋清・川崎市長 3

若き音楽家集団「芸術村あすなろ」代表、渡辺礼子さん

土に花が咲くように地域に自植への音楽を

学習・文化情報 / 会員募集 8

◆はりきつてます グループ紹介
時代衣裳着付け研究会 11



(市民企画講座)

ごみの減量化とリサイクル 兼松方彦さん

分別収集 住民自らが汗を 福祉、街づくりに向け 12

地球史探訪へのいざない 三輪修三さん 13

加瀬山が「川崎人」の原点だった

●随想絵 佗助 田村あや

●もくじ絵 ナンテンギリを食へるヒヨドリ 清水幹子

●表紙絵 殿下橋(左下)と新殿下橋(中央) 田島志織

神木本町二の二三・殿下橋バス停下車

シルバーカレッジ開設に向け努力——新春ごあいさつ

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。市民の方々におかれましては昨年、当事業団主催のイベントや講座などに多大なご協力とご助言をいただき、心から感謝しております。当事業団は設立3年目になり、これまでの市民企画講座、資格取得講座、かわさきコンサート、ふれあいサマーキャンプ、遊びの広場、生涯学習情報誌・ステージ アップ、同情報システム・ステージ ラインの充実を図ってまいります。また本格的生涯学習の時代に対応するため、各分野の学習を系統的に深める「シルバーカレッジ」(仮称)の開設を検討、早い時期の実現に努めます。市民のみなさまの率直なご意見・ご提言をお願いいたします。

1993年 元旦

(財)川崎市生涯学習振興事業団職員一同

●随想● 高橋清——川崎市市長

思いをつくまま ⑨



初対面の人にたいして抱く印象が、のちのちまで鮮明に残るように、ひとたび、人々の胸に刻まれた都市イメージはなかなか消えにくいものです。

しかし、他人の印象や評価に過剰に反応して、実態から離れて背伸びしすぎたり、定着したイメージにとられ、都市の内蔵する豊かな歴史性や未来への可能性を過少評価して、萎縮してしまってもつまらない話だと思えます。川崎の場合はどうでしょうか。おそらく、高度成長時代の公害都市のイメージが今日払拭され、人々の意識から完全に消えたとは言いきれないでしょう。

前市長時代から、市民・企業の努力とあいまって、公害防止のとりくみは一定の成果を収めました。しかし、いったん付着したイメージの怖さは、現実の姿とは関係なく勝手に一人歩きしてしまうもの

です。

そういう意味で、都市のイメージを変えることは、存外むつかしい作業であるのかも知れませんが。

川崎は明治期以来、近代日本建設の最前線に位置づけられ、臨海部を中心に立地した多くの工場群

陸と海に翼広げる地の利

は、文字どおり「産業国家日本」の屋台骨を支えてきました。

そして、全国からこの工場群に就労の機会を求めて集まってきた多くの人々を吸収しながら、今日の大都市川崎の骨格は形づくられてきたのです。

その間、新しい息吹きと長年の暮らしの中に育まれてきた伝統的な気風が激しくぶつかり、軋みあう中から、豊かな歴史性と未来への期待を、ともに懐に抱いた都市として成長してきたといえます。

ところで、不確かな記憶ですが、「観光」のもともとの意味は、国の光を観ることにあり、と聞いたことがあります。我流の解釈を述べれば、この「光」を風光明媚な自然の景観や名所旧跡と理解してはもう一つ味がなくなりませう。

むしろ、その土地の本当のすばらしさ・豊かな可能性は、きらびやかな外からの光に映える場所にあるのではなく、その土地の奥深いところから発する、目に見えない光にこそ隠されているのだ、と理解したほうが、しつくりいくよ

うな気がします。夢見ヶ崎の地名とも深くかわって、かつて太田道灌が江戸湾を一望できる場所として、加瀬山(幸区)に築城を計画したという逸話があります。

多摩丘陵と多摩川に沿って、古来より陸地と海に大きく翼を広げる「地の利」をもった川崎には、私たちが、まだ発見できないでいる豊かな可能性を秘めた光が隠されているはずですよ。

いま川崎市では、若い職員を中心に、魅力ある川崎のまちづくりと活力ある職場づくりをめざして

「川崎イメージアップ作戦」を展開しています。

これもまた、川崎の内部に宿した見えない「光さがし」の一つの試みであると思えます。次号では、



いくつかのデータをもとに、現実の川崎の姿をとりだしながら、21世紀に羽ばたく川崎の都市像の一端をさぐってみたいと思います。

(十一月二十九日記す)



「芸術村あすなろ」代表
渡辺 礼子さん

いまを話す

インタビュアー 岩澤朝男さん (川崎柴笛
クラブ)

Vol.11



若き音楽家集団「芸術村あすなろ」が昨年(一九九二)、十周年を迎えた。あすなろの理念は「土に花が咲くように、土に音楽をやらせねばならない」。その実践の一つが、川崎市民千人による「ボレロを楽しむ会」。子ども達のオーケストラをバックに父母の大合唱は同市の暮れの風物詩だ。その一方で、児童・生徒たちに、雑巾がけや農作業、小動物の世話をさせる。星空の下を一晚中、父母と一緒に歩く「夜行軍」もある。それは「モノを育てることから、大地からでなければ、本当の音楽は生まれない」の信念に基づく。「お稽古ごと」集団ではない。ゲストは、あすなろ代表の渡辺礼子さん。川崎柴笛クラブの岩澤朝男さんにインタビューをお願いした。

地域に自植えの音楽を 土に花が咲くように育てたい

「芸術村あすなろ」は、今年(一九九二)創立十周年を迎えられ、おめでとうございます。

渡辺さん ありがとうございます。皆様のご支援のおかげです(頭を下げる)。

あすなろは「若手音楽家と子ども達の音楽教室の集団」とのイメージが強かったです。

渡辺さん 一般的にはそうですね。

ところが「サケの放流会」で、あすなろの皆さんがトレーナー姿で、伸び伸び歌っているのを

見て、一般の音楽教室とは異なっただ霧囲気を感じました。

渡辺さん そうでしたか。

まず、あすなろの理念と方針をお聞かせ願えますか。

渡辺さん 三年前に亡くなられた恩師の安部嘉伸先生(指揮者)は「音楽をやる人こそ畑を耕さねばならない。様々な事も知らなければいけない」と教え、日ごろから「土に花が咲くように、土に音楽をやらせねばならない」とおっしゃいました。

いい言葉ですね。地域社会

で音楽をやらせよう。

渡辺さん それで「一流の演奏会も大事だが、自植えの音楽を育てなければ」と考え、川崎に音楽の種をまき、子ども達とそれを吸収し合い実らせる。友達や親たちにも広げようと、あすなろを作りました。この街づくり、大地づくりは先生の理念でもあるのです。(静かな口調で)

渡辺さんが、あすなろ誕生にかかわったいきさつは。

11人が理想めざし発進 戸別訪問し会員を募る

渡辺さん 私は大卒後、ある音楽教室に勤めましたが、自分の考えと異なるものを感じ、一年で辞めました。「安部先生の理想を貫くには、自分たちで集団を作る以外にない」と門下生十一人が集まり、お金を出し合って、パンフレットを作り、宮前区のグリーンハイットを皮きりに各戸を訪問、三カ月で会員二百人を集めスタートしたのが十年前です。

スタートまでが大変でしたね。

渡辺さん 仲間は世間知らずの青二才ばかりです。経営とか運営



子どもに雑巾がけ、農作業、小動物の世話も 真の音楽はモノ育成から

については全くの素人。暗中模索の毎日で、夜中の三時過ぎまで相談し合ったこともありました。安部先生的情熱と在校生、地域住民のご協力でどうにか発進しました。

——皆さんの実践活動に「土から音楽を实らせる」が生かされたわけですね（感激の面持ちで）。

渡辺さん そうです（大きくうなづく）。勉強としての音楽ではなく、日常生活の中で食べる、寝る

と同じように生活に不可欠の音楽を育て広げたいのです。

——あすなるの会員（生徒、支援者）の対象は。

渡辺さん 一歳半の幼児以上ならどなたでも会員になれます。

——サケの会の話に戻します。あの時のステージづくりの男の子たちは、アルバイトかお手伝いと思っていました。開演して、この子たちがバイオリンを弾いている

のに驚きました。準備中にこの子たちと話をしたのですが、もの考え方・発想がしっかりしていて「その夢を実現するため、頑張っているのだな」と、強い印象を受けました。この根源にあるのは何でしょうか。

団員と子どもがお互いになにかを吸収しあう

渡辺さん 「自分の音楽」のために頑張っているからだと思います。私たちは、よく「教えるとは何なのか」を考えます。一般の音楽教室は、子どもが教室にきて、教師に何かを教えてもらいます。

私たちは、あすなるを土壌に団員は団員で、子どもは子どもで何かを見つけ、お互いに吸収し合っていく。先生と生徒の関係ではなく、一人の人間として、自分の力で何かを見つけていけるよう援助する。これが基本だと思います（ジェスチャーを交えながら）。

——幼児教室では、雑巾がけをさせているそうですね。

渡辺さん 幼児のレッスンは一時間半ですが、まず教室の雑巾がけから始まり、畑作業、小動物の世話、体操、最後に音楽です。母

渡辺 礼子 さん

わたなべ・れいこ—昭和34年10月、岩手県二戸市に生まれる。15年前から川崎市民。同57年、洗足学園大音楽学部声楽科卒。安部嘉伸・順子夫妻に師事。二期会オペラスタジオ修了。同58年、安部先生とその門下生で「芸術村あすなる」を設立。現在、同団体代表、二期会準会員。現住所の川崎市多摩区中野島5の3の16で母と暮らす。

親の中には「期待はずれの音楽教室」と、思った人もいます（苦笑い）。

——先生（団員）が子ども（会員）と一緒に土に親しみ、動物に接していく。この触れ合いから、優しい心が育っていくのでしょうか。

渡辺さん モノを育てるところから、音楽が生まれるのだと思います。私たちはお百姓であり土建屋であり、そして音楽家なのです。大地からでなければ、本当の音楽は生まれません（こや



「多様な活動、経営成り立つか？」 「今日も生き、明日も生きていく」

しているそうですね。

渡辺さん 五泊六日でやっていきます。教室では感じられない、新しい子どもの姿を見出だすことがあります。

人生や生活の在り方は、多くの体験から学ぶので「大地から音楽は生まれる」あすなろが、合宿をすることは理解できません。でも、多様な事業を手掛け、経営の方は成り立つのですか。

渡辺さん 今日も生きていますよ。明日も生きていきます（冗談ぼく）。これまで何回も危機がありました。その都度、協力者が現れ、何とか乗り越えられたのは、幸運でした（しみじみと）。

悩ませる質問だったようですね（笑い）。発足の時、団員で、ご家族に反対された方もいたのでありませんか。「晴れ舞台（コンサート）の娘の姿を思い描いていたのに、訳の分からない団体に入らなくても」と。

渡辺さん いまでも「そろそろ辞めたら」と言われているメンバーもいますよ。世間知らずだから、怖い物知らずでしたから、やれた部分がありますね。安部先生から「チケット売ってこい」と言われた時「なんで私が……」と反発したくらいですから。

ほー。先生方はいま何人いるのですか。

渡辺さん 三十人弱で、洗足学園大出身が半数。あとは国立音大、桐朋学園大などです。

結構、大所帯ですね。会員は何人ぐらいですか。

渡辺さん 幼児二百人、幼稚園児百人など延べ約七百人です。

収入は、会員七百人プラスアルファからで、楽器も衣装も必要となると団員の給料は。

渡辺さん お金の話は夢が壊れますので……。三十人でオペラをやりますから、楽器は全部揃っています。子ども達もジュニア・オ

ーケストラ、合唱団、オペレッタなどがあります。書道や空手の先生もいます。変わったものでは、自分たちで楽器を作って演奏する少年教室があります。ワンパク児をつくるため、空手も取り入れていきます。感じて作り出す創造の部分を耕したいのです。

受験のために辞めていく会員も多いのではありませんか。

渡辺さん 「あすなろ風」の子どもが育ち、部活で忙しい時でも月一、二回は顔を出してくれます。音楽がいつも彼らのそばにあると

かに。

説得力のあるお話しですね。しかし「なぜ技術だけではいけないのか」と疑問をもつ方もいると思うのですが……。

渡辺さん ここはこう歌う、このように弾くなど、型にはまった勉強での音楽は、マンネリ化しがちです。音楽を理解するのではなく「感じる」が大切です。それも常に新鮮に。

夏、子ども達と合宿を実施

岩澤 朝男 さん

いわさわ・あさお＝昭和26年、秋田県田代町に生まれる。同49年から川崎市民。会社員を経て平成元年から社員教育プロデューサー。現在、地域社会活動団体「ロフティ」中高生の会顧問、日本勤労者山岳会県理事、山岳会「川崎楽笛クラブ」副代表。現住所は同市麻生区虹ヶ丘3の1の6の304。家族は妻と小学4年の長男。



実感しています。辞めていく子ども少しはいます。

私も中高校生を対象に社会活動をやっていますが、自分をうまく表現できる子と、できない子があります。「感じるトレーニング」は音楽だけでなく、ほかの活動の中でも大切ですね。

渡辺さん 同感です。夏の合宿で山登りをしますが、体を動かし汗を流し頂上に立った時、子ども達が一斉に歌い出します。目標に到達した実感から自然に出た歌なのです。

渡辺さんのお話を聞いて、音楽の原点に触れさせていたたい気がします。

渡辺さん そのように理解して

理解でなく感性が大切

くださって感謝します。
——教室が中野島(川崎市多摩区)へ移転するそうですが。

けいこ場追い出されるが 救いの神が新築し賃貸

渡辺さん 今のけいこ場(横浜市緑区)が、地下鉄新線にかかるため、追い出されるのです。私が学生時代からお世話になっていた大家さんに窮状を訴え、二階建て延べ二百平方メートルの稽古場を新築して、格安で貸していただけることになりました。

——ピンチになると、助っ人がまた現れた。どなたですか。

渡辺さん お陰様で。元国立大 学農学部教授の野並慶宣さんと、陶芸家のキヨさん夫妻です。「モノをつくる」という共通の立場からご協力いただけ感謝しています。

——今後の抱負をお聞かせ下さい。

渡辺さん サケが産卵のために十斤の滝を登る姿は、あすなろの創設期を思い出させてくれます。

あすなろは、子ども達が夢中になれるものを見付け、自分の力で明るく、たくましく成長してほしいのです。私たちは、音楽を通じてそのお手伝いをさせていただき、一人でも多くの人たちと歌いたいと願っています。

——これまで、音楽家はわれわれ庶民とは遠い存在と思っていました。きょう、お話を聞きして、「身近かにいる音楽家集団」に感



激しました。今後も市民の近くにおいて歌い続け、演奏していただきたいと思えます。貴重なお話、ありがとうございました。

編集チームから：あすなろの事務所は川崎市宮前区けやき平の一六、☎853-11649

(題字は高橋清・川崎市市長。協力 虹ヶ丘こども文化センター。構成・文責 田中閑)

一流演奏家とオーディション合格者が共演する

かわさき★ニューイヤーコンサート

'93年1月10日(日)PM6時半開演

川崎市教育文化会館大ホール

■出演—— トランペット 津堅直弘 ヴィオラ 店村真積 ピアノ 弘中 孝
ヴァイオリン 久保陽子 '92年度オーディション合格者13人

■曲目—— プーランク作曲「ホルン・トランペット・トロンボーンのためのソナタ」
ドホナーニ作曲「ピアノ五重奏八短調作品1」 その他

■全自由席 1,000円

■お問い合わせは ☎952-5000の当事業団

学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演



「明日」も、いい汗…。

スポーツライフ◆市体育館①バドミントン(中級)

は1月19、3月23日の毎週火曜10、11時半。講師は元全日本チャンピオンの小島一平さん。教材費2500円②テニス(入門)は1月22、3月26日の毎週金曜13時半、15時。講師は市テニス協会ヘッドコーチの天野雅仁さん。教材費2千円③テニス(初級)は1月22、3月26日の毎週金曜18時半、20時。講師は市テニス協会ヘッドコーチの中西康悦さん。教材費2千円。いずれも対象は市内在住在勤在学の15歳以上の方。定員40人。受講料3千円。申込みは①②は1月12日10時、③は同日18時半に直接来館。

20013255。

「老人保健法による健康教育講演会◆宮前保健所」1月13日は肥満と成人病に

ついて(森島小児科内科の森島昭先生)▽18日は高齢者の寝たきり予防について(丸田クリニックの丸田桂子先生)▽2月2日は入れ歯の話(藤尾歯科の藤尾昭先生)▽3月2日は歯槽膿漏の話(南平歯科医院の二川芳人先生)。いずれも14、15時半。定員先着50人。参加無料。申込みは☎85613254の同保健所・庶務課。

「歩け歩いて健康づくり◆宮前保健所」2月8日は講演「歩け歩いて健康づくり」。講師は日本歩け歩け協会の金子智一会長。15日は実技指導「さわやかウォーキング」。講師は同協会の奥野清歩さん。いずれも14時から。定員先着50人。参加無料。申込みは☎85613254の同保健所・庶務課。

「宮前女性セミナー」素敵生活 はじめの一步を歩み出すために◆宮前市民館他」1月22、3月19日の毎週金曜10、12時。全9回。溢れる情報、多様な生き方がある中で、自分らしい生き方を探る。受講料無料。定員30人。1歳半以上の保育(定員10人)あり。申込みは☎88813911。

「春季労働講座◆県川崎合同庁舎」2月18日は今後の日本経済の展望(浜銀総合研究所の小山正調査部副部長)▽23日は'93春季賃

市外局番のないものは044

上げ展望、日経連と主要労働単産の春季賃上げ要求動向(労働評論家の矢加部勝美さん)▽26日は賃金と労働時間(同)いずれも18時10分、20時10分。申込みは☎23317351かFA X24412802の県川崎労働センター(主催)。

「点字入門講座◆川崎授産学園」1月18、2月22日の毎週月曜10、12時。全6回。点訳活動を通して視力に障害を持つ人への理解を深める。対象は市内在住者。定員25人。費用千円。点字サークル「木の芽会」、市視力障害者福祉協会協力。申込みは1月6日より☎95415011の同学園。

「トークショーと映画のついで」21世紀にむかってどう生きる、家族の選択・家庭の役割◆市産業振興会館」1月23日(土)13、16時半。高齢化、核家族化、出生率の低下、女性の就業率の上昇などが原因で変質しつつある家族の在り方を考える。講師は評論家の樋口恵子さん他。映画は第62回アカデミー賞最優秀作品賞など4部門受賞作品「ドライビング・ミス・デイジー」。入場無料。手話通訳、2歳以上の保育あり。申込みはハガキに住所・氏名・電話番号を記し1月18日(消印有効)までに〒210川崎区日進町25-1、神奈川県川崎地区行政センター(主催)☎23317351(内)214。

「国際動向をめぐる知的財産権セミナー」日米知的財産権・紛争とその法的手段◆市産業振興会館」1月27日(水)14、17時。アメリカ特許紛争の一般的解説(尚和法律事務所の福島栄一弁護士)▽最近の日米特許侵害事件から学ぶ米国進出に際しての留意点(同・渡邊新矢弁護士)▽コンピュータ・ソフトウェアの保護範囲とリパースエンジニアリングの限界(同・宮下佳之弁護士)。参加費一般6千

「春季労働講座◆県川崎合同庁舎」2月18日は今後の日本経済の展望(浜銀総合研究所の小山正調査部副部長)▽23日は'93春季賃

学習・文化情報

学習・文化情報

参加したい催しがある

円、KRD会員3千円。定員先着40人。申込みは☎54814117、FAX54814151の市産業振興財団情報開発課(主催)。

〔老人介護講習会◆鼎立勤労女性会館〕1月25〜3月5日の週3回月・水・金の9時半〜15時半。全18回。受講料は無料だがテキスト代は実費。申込みは往復ハガキで1月18日までに住所・氏名・年齢・性別・電話番号・受講動機を記し、〒210幸区南幸町3115413の同館。☎51110451。

〔教育講演会〜柔道と私◆宮前市民館〕1月14日(木)14時半から。講師は日体大の大学院生でバルセロナオリンピックの金メダリストの古賀稔彦さん。参加無料。定員先着百人。申込みは1月7日10時より☎88813911の同館。

〔KAST科学技術講演会◆KSPホール〕1月29日10時45分〜17時。テーマは「開かれたタイムカプセル〜文化財の調査・保存の科学的手法」。文化財の調査

・保存における先端科学技術の応用とその成果の解説。講師は奈良国立文化財研究所・埋蔵文化財センター長の佐原真さん他。定員2百人。参加費は一般3千円、賛助会員2400円、学生千円、申込みは申込書を郵送またはFAX81912026で神奈川県科学技術アカデミー(主催)。29〜31日に美術、考古学関係などの無料展示会もある。☎81912032。

〔KAST教育講座◆KSP〕2月2〜3月2日の毎週火曜コースと2月5〜3月5日の毎週金曜コース。いずれも9時半〜16時半。全5回。「実践CAD/CAMコース」。三次元形状モデリング技術、機構解析、構造解析を修得する。対象は研究者・技術者。受講料85000円。申込みは1月13日までに☎81912033のKAST教育部教育研修科。

〔KAST教育講座◆北里大、KSP〕3月1〜6日9時半〜19時。「細胞培養コース」。無菌操作、初代

・継代培養を実習。対象は研究者・技術者。受講料14万円。申込みは2月5日までに☎81912033のKAST教育部教育研修科。

〔第8回市民だれでもシンポジウム◆麻生小他〕テーマは「子どもの文化を考える」。2月20日(土)が麻生区の麻生小、27日(土)が新百合21ホール。時間はいずれも14時から。20日は分科会で、子ども社会の遊びや文学、文化について討議する。主催は☎22218821の川崎市文化財団、当事業団など。入場無料。

〔自然観察会〕①多摩川の冬鳥・関戸橋は1月31日(日)10時、京王線聖蹟桜ヶ丘駅西口改札集合。1月16日から受付け②雑木林の冬鳥・小野路は2月21日(日)9時半、小田急線鶴川駅改札集合。1月21日から受付け③地層観察会は3月7日(日)10時、JR大船駅集合。2月16日から受付け。いずれも雨天中止。

対象は小学4〜成人。定員20人。申込みは☎92214731の青少年科学館(主催)。

〔芸能サロン〜川崎能楽堂の四季'93冬◆川崎能楽堂〕1月30日(土)14時開演。古典落語・春風亭柳橋独演会。入場料2500円。能楽堂(☎22217995)にてチケット発売中。

〔川崎能楽堂の定期◆川崎能楽堂〕2月6日(土)観世流・能と狂言。第一部は13時半開演。能「小袖曾我」。第二部は16時開演。能「殺生石」。入場料3千円。1月6日9時から能楽堂(☎22217995)にてチケット発売。

〔市民天体観望会◆青少年科学館〕①1月16日(火星、金星、星雲、星団)②30日(火星、金星、月齢3日の月)③2月13日(火星、金星、星雲、星団)④2月27日(水星、金星、月齢6日の月)⑤3月13日(金星、星雲、星団)①〜③は18時から。④⑤は18時半から。申込み不要。雨・曇りの時は中止。小学生は保護者同伴。☎92214731。

〔天体写真撮影会◆青少年科学館〕①2月14日(オリオン大星雲)②3月28日(月齢5日の月)。いずれも定員14人。対象は小学5〜成人。雨・曇りの時は中止。小学生は保護者同伴。①は1月17日②は2月14日から☎92214731。

〔プラネタリウム◆青少年科学館〕投影話題は1月「散光星雲」、2月「小惑星の正体」。投影開始時間は火〜金：15時▽土曜：13時半、15時▽日、祝祭日：10時半、12時、13時半、15時。おとな百円、子ども50円。1月15日までと月曜休館。☎92214731。

〔子ども工作広場◆草木染め入門◆県立高津青年会館〕①は1月10日(日)13〜15時。対象は小学生。定員15人②は2月7日(日)10〜16時。草木染めによる型染め。材料費千円。昼食持参。定員10人。申込みは☎84412101の同館。

〔タオルを使った健康づくり◆宮前市民館〕2月19日(金)14〜16時。いつで



学習・文化情報

参加したい催しがある

も、どこでも、だれにでも無理なくできる。タオル体操。講師は順天堂大体育学部の武井正子教授。参加無料。定員先着50人。申込みは☎85613254の宮前保健所・庶務課(主催)

「ろうきんフォトコンテスト◆神奈川県労働金庫」

2月19日締切り▽テーマは課題部門「神奈川の花とみどり」か自由部門▽作品はキャビネ以上のプリント作品でモノクロ、カラーとも可。点数の制限はない。未発表のもの▽賞は各部門ともグランプリ(1点・3万円)、金賞(2点・2万円)銀賞(3点・1万円)、佳作(若干・記念賞品)。参加者全員に参加賞。応募資格は

労働金の会員・組合員およびその家族。応募は応募用紙に必要事項を記し、労金本・支店または〒231横浜市中区山下町25511、神奈川県労働金庫・業務推進部「第11回ろうきんフォトコンテスト係」。☎045168118851。

「KSP国際フォーラム◆KSPホール」2月10日

10〜18時。「21世紀の世界と日本」日本型経営、いま何が問われているか。日本の企業が世界の企業とどう協調・共生すべきかを考え、グローバル化時代の企業像を提言する。参加費1万円。申込みは1月20日までに☎81912001のケイエスピー交流事業部。

「かわさきデザインフェア◆KSPホール」2月18、19日13時半〜17時。著名なデザイナー関係者を講師に迎えデザイン会議を開催。入場無料。詳しくは☎20012334の経済局産業部工業課。

コンサート

「新春コンサート」河野保人ツィターのタベ◆会館とどろき」2月4日(木)18時開場。河野保人さんのツィター演奏とティナー。曲目は「菩提樹の木陰にて」「第三の男」「美しきウイーンより」ほか。会費5千円。定員先着80人。申込みは1月11〜29日に窓口又は☎73313333の同館。

主催は(財)川崎市学校教育職員互助会。

「モーツアルティアード定期演奏会 高橋英郎レクチャア・コンサート」モーツアルト・マチネ◆イノウエホール」1月31日(日)14時開演。曲目は「フィガロの結婚」から4曲、幻想曲二短調K・397、「ドン・ジョヴァンニ」から5

曲。出演はレクチャア：明治学院大の高橋英郎教授、ソプラノ：二期会会員の高橋照美さん、バリトン：同・星野淳さん、ピアノ：河原奈美さん。入場料は1800円(全席自由)。申込みは☎93315244の豊川さん。

ギャラリー

「かわさきB.M.市民文化ギャラリー」1月7〜26日：さまさまな眼―50・岡崎乾二郎、アズビー・ブラウン2人展▽2月4〜23日：さまさまな眼―51・宇田見ひとみ展。いずれも11〜19時。水曜休廊。入場無料。同ギャラリーはJR川崎駅

東口駅より徒歩3分。詳しくは☎22218821の市文化財団。

「小・中学校理科優秀作品展◆青少年科学館」1月24〜31日。全国でもトップレベルの工夫を凝らした作品。月曜休館。☎92214731。

「会館とどろき」1月18日まで：教職員グループ展(造形)▽2月3〜16日：中原区児童画展▽19〜3月2日：近隣小中学校書道展。☎73313333。

「KSPギャラリー」2月8〜27日11〜18時：インダストリアルデザイン展。1および企業のプロトタイプや完成品の展示。入場無料。☎81912001。

会員募集

●美研の会(中原区上小田中621、細井満里子代表)心身共にいつまでも若さを磨き続ける会です。「もう年だから」と諦めず、是非一緒に参加してみませんか。きつとりフレッシュ

するはず。毎月木曜、偶数月は10時半〜12時・奇数月は9〜10時半、中原市民館で。講師は角田亨子氏。第5木曜は休会。連絡先は☎77712702の同代表宅。

●木彫同好会「楓」(かえて)《高津区溝ノ口1152、前川いづみ代表》初めて彫刻刀を持つ方歓迎します。小物、台所用品、大型の鏡などを楽しみながら彫り、手造りの喜びを味わってみませんか。第1・3水曜10〜12時、県立高津青少年会館4階で。連絡先は☎82216399の同代表宅か☎41119850の清水宅まで。

●きつつき会(宮前区初山11811、志田三子(みつこ)代表)刻字・篆刻(てんこく)のサークルです。表札や自分の刻印を作ってみませんか。講師は赤城北涯先生。第2・4土曜13時半〜15時半、菅生分館で。連絡先は☎97513467の同代表宅。

伝統文化伝承に燃える

時代衣裳着付け研究会

けいじょうしやうじやく

グループ紹介

「着物は瞬間の芸術」と時代衣裳着付け研究会。上森恵美子代表(42)の会員十二人は毎週金曜日の午前、川崎区の労働会館で時



時代劇のヒロイン演じ 女の変身願望を実現

代劇や舞踊の着付けを学んでいる。「着付けは一生の技術。女性の生涯学習の一つとして、美しいものにいつまでも携わってみたい」と願う会員は、時代衣裳着付け師(東京衣裳きもの学院認定)をめざし年に二回の試験で腕を磨く。

時代衣裳は現代の着物と異なり、帯を巻く位置や衿の抜き加減によって、さまざまな役を表現できるのが魅力。一丈二尺(約3.6m)の帯と着物で女性の変身願望がかなえられる。

練習はその日のテーマに合わせて、お互いに着物の着付けをしあい、時代劇のヒーロー、ヒロインに変身する。「楽しく明るく」がモットーの会が、最も盛り上がる瞬間だ。襟を着ると自然に胸を張り、芸者だとしなを作る。「衣裳を着けていくうち、その役の気持ちになるから不思議です」と同代表。

毎年二月、同館のサークル祭の舞台で、いろいろな時代の衣裳を着けると着物の美しさに歩き方や演技が加わり、艶やかさを増す。

昭和六十三年五月、会を発足させて間もなく、男性ファンクラブができ芸者、舞子に人気が集まる。橋本広子さん(44)は「現代着

物は着飾っているという印象が強いが、時代衣裳はその当時の生活に密着しているのが特徴」と話す。「昔は時代劇自体に興味を持っていただけ、今では着物や後ろ姿の帯が気になって」と岩岡留美子さん(46)。「娘が結婚する時は時代衣裳の一つである花嫁衣裳をプレゼントしたい」と笑顔。

三百枚も着物を持つ鈴木静恵さん(65)は必ず着物を着て会に出席する。踊りを習っているだけに、演技指導に熱がこもる。「出来ることなら俳優の杉良太郎さんの舞台衣裳の着付けをしてみたい」と夢が膨らむ。

会員の多くは「老人ホームを訪問し、お年寄りの皆さんに着付けをしてあげ、寸劇でも楽しんでほしい」と意欲的。

講師の東京衣裳きもの学院長、高島厚子さん(60)は「若い人にもっと着物の良さを知って欲しいし、日本の伝統文化である着物を、世界中の人に広めたい」と静かに語った。

同代表宅は幸区南加瀬三二五一八、☎599911639。

取材・松本成代
カメラ・田島志織

92年度の市民企画講座「くらしやすい地域エコロジー」ごみ・水・空気、そして「農」(見学をふくめ八回)「川崎、むかし・いま・あした」歴史と探訪(同)が昨年(九二年)十月から始まった。これは当事業団が、市民企画スタッフを募り、そのスタッフが講座のテーマや講師選び、PR方法、運営までを行う「市民自主講座」。小誌は、先月号で「シンポジウム」川崎のごみ問題を考える」を掲載したが、今号では「ごみエコロジー」減量とリサイクルを求めて「地域史探訪へのいざない」の要旨をお届けする。

くらしやすい
地域エコロジー

「ごみの減量とリサイクル」地域交流センター・兼松方彦さん

分別収集 住民自らが汗を 福祉、街づくりへ向け

講座「ごみエコロジー」川崎のごみ問題を考える」は、市民にとって「ごみとはなにか」を問いただすと同時に、ごみの減量と再資源化の他都市の具体的実例を教訓に「川崎のごみの現状と将来」について示唆に豊んだ内容だった。

講師の兼松方彦さんは、地域交流センターの職員。同センターは



国の外部団体とは無関係の任意団体で、小誌十月号「いまを話す」のゲスト、寄本勝美・早大教授が幹事。数年前から全国各地で、合宿による「ごみ資源化研究会」を開き、住民とともに各地域のごみ事情を調べている。

また、兼松さんは高知県の民間シンクタンク勤務を経て三年前、同センターへ出向。現在、東京・墨田区でリサイクル問題を、中野区で環境にやさしい街づくりに携わっている気鋭の研究者。なお、同センターには民間団体が構成する「日本リサイクル・ネットワーク会議」事務局がある。

ごみとして排出した物が再生すれば立派な製品に

川崎市のごみ毎日収集は全国的にも数少なく、市民に利便性をもたらしめているが、国の廃棄物統計年報によると、川崎市民一人当たりのごみ排出量は全国的にみて、かなり多い。また、収集回数が多い市町村は、ごみ排出量も多い傾向にあるのも事実だ。

兼松さんは、まずリサイクルの基本問題に触れ「Aさんにはごみでも、Bさんには有効で利用できる品物」ということが家庭から排出されるものに多くみられる、と

指摘した。

そのうえで、兼松さんは多くの地域でリサイクルセンターがつくられているが「ごみとはなにか、ごみはなぜ出るのか」を改めて真剣に考える必要がある、と問題提起した。

燃える、燃えないでなく
燃やす、燃やさない意識

ごみを大別すると可燃ごみ(燃えるごみ)と不燃ごみ(燃えないごみ)に分けられる。しかし、実際は缶などの不燃ごみでも燃えるのだ。

「皆さんにはつきり意識してほしいのは、『燃えるごみ』『燃えないごみ』と区別するのではなく、『燃やすごみ』『燃やさないごみ』の区別が大切だ」と兼松さんは力説した。

プラスチック資源化に
燃やす・燃やさぬ方法

「燃やすごみ」「燃やさないごみ」の区別は、地域によって異なる。

プラスチックについて、越谷市などでは燃やしている。火力を得るためだ。ごみの焼却で一町の電

力を賄っている。

高知市は可燃ごみの収集は週二回、不燃物収集が月一回、それにプラスチック収集が週一回ある。同市にはプラスチック減容工場があり、そこで四〇分の一に減容・圧縮する。また、ペットボトルはチップ状にし、発泡スチロールも固化・ブロック状にする。いずれも再資源化するため、大阪の工場に送っている。

再資源化には、地域の特色を生かした様々な方法があるのだ。

ごみを処理するには どこかで分別が必要

ごみを処理するためには、処理場や家庭など、どこかで分別する必要がある。また、ごみ処理とは市民が税金を払い、利便性を買収取ることだ。

言い換えると、住民が分別収集や再資源化のために、手を加えれば加えるほど、ごみ処理費は安くなり、その費用・税金が福祉や街づくりにも回せるようになる。

分別を市民がやるのか、処理工場で行うのかの地域差があり、毎日収集の所と週三日収集の地域差になる。どちらが良い、悪いと言

えないが、統計上は収集日が多い地域ほど、ごみの排出量も多い傾向にあることは否定できない。

粗大ごみの収集は月一、二回だが、この場合、家が狭く置き場所がないので、かなり計画的に排出するよう各家庭で工夫しているようだ。毎日、出せるとなれば気軽に出すようにならないだろうか。

さて、最近、私（兼松さん）はスイスへ行く機会があったが、同国の「ミグロ」というスーパーの肉やタマゴ、野菜のトレーは全部、

再生紙で出来ていた。「再生紙トレイでなければ買わない」と業者に通告、実施したとのことだった。

ペットボトルが日本では瓶を追放し、ごみ増加の要因の一つに挙げられているが、同スーパーではリサイクルを前提に置いてある。ペットボトルを回収箱に入れるとタックシールが出て、点数を集めると商品と交換する仕組みになっている。また、同スーパーでは練りカラシやおろしショウガのような小物は容器だけでパッケージ（包装箱

・紙）していない。わが国のスーパーではレジでビニール袋をくれるが、袋は客が持参するのが世界の流れになっている。

さらにスーパー出口に大きな箱があり、客がパッケージを取り除き、箱へ捨てていく。家庭で不要だからだ。

川崎市は、平成六年度までにごみ一〇%減量を決めた。ごみとは何かを市民、事業者が直視してほしい。

（担当・飯島睦子）

川崎、むかし・いま
いま・あした

「地域史探訪へのいざない」

日本民家園学芸員・三輪修三さん

加瀬山が “川崎人”^{ひと}の原点だった

講座「川崎、むかし・いま・あした」歴史と探訪」は全八回で、

その講師陣は川崎の地域史研究の第一人者ばかりを揃えた。

今号は、第一回目の「地域史探訪へのいざない」がテーマ。講師は日本民家園学芸員の三輪修三さんで、「東海道川崎宿」(八雲書房)

「川崎の歴史五十三話」(多摩川新聞社)などの著書がある。

三輪さんは初めに「川崎という

地域が歴史的にどのような風土であったのか、との視点で川崎を見直してみたい」として、黎明期に東関東でどのような歴史的背景・位置を占めていたかについて話した。

現在の鎌倉から海の方角に行くのと片瀬海岸があり、その沖合に江ノ島がある。



「実は川崎にも江ノ島と同じような島があり、それが幸区の『加瀬山』だ。江戸時代の地図によると川崎は八十六カ村から成る。北加瀬村と南加瀬村の境に島状の山があった」と三輪さんは述べ、その山が「川崎の江ノ島」加瀬山。この八十六カ村は平均的な農村で、その地域の「核」がないのが川崎の特徴という。

多くの地方都市には核がある。たとえば仙台には、青葉城があり広瀬川が流れ武家屋敷、寺院があって城下町の輪郭をもっている。川崎とは対照的だ。

さて、川崎は多摩川に沿って多摩丘陵があり、それは、八王子方面から高津区付近まで。加瀬山は多摩丘陵と独立した丘陵である。

しかも加瀬山には、数千年前から人が住んでいた。加瀬貝塚で、淡水と海水が入り交じったところで生息する魚や貝、海藻類が出た。つまり、加瀬山は多摩川と東京湾の境にあり、川崎の歴史の原点である人々が生活していたのだ。

その頃は加瀬山の麓まで太平洋の海水が押し寄せ、幸区のひとつと、川崎区の全部は海中にあった。加瀬山は川崎の江ノ島だったのだ。

のだ。

川崎の他の丘陵先端部にも点々と貝塚が存在する。子母口、新作、影向寺などの貝塚で黎明期の川崎の多くは入江が入り込み、私たちの先祖は、どこからか来て、丘陵の先端部に住みついたのだ。

農村はなぜ閉鎖的であったか 共同体の亀裂は村の命取り

ここで三輪さんは、川端康成の「伊豆の踊り子」を引用。村の入口に「物ごい、旅芸人、村に入るべからず」の立札がなぜあったのかと問いかけた。

農村社会は、自然条件に左右される。用水を確保し再生産に必要な田植えから藁葺の葺替え作業に至るまで、村人が協力し合わなければ成り立たない。

だから、農村は共同体社会の亀裂を恐れ、よそ者の侵入を排除する閉鎖的社会だったのだ。

川崎を強制的に ひっぱる力は？

多摩川右岸の中、下流域にある川崎という閉鎖社会は、安定した生活の場だった。そこにインパクトを与え、強制的・人為的に引

ばる力がなにかを考えてみたい。

古代においては国衛(各国の行政府)が重要な意味をもち、中世には武士団のエネルギー集結の鎌倉が強い影響力を与えた。近世・封建制社会になると、江戸の徳川政権が決定的影響力をもち、近代になっても川崎を規制した。政治・経済・文化の強大な権力が多摩川を隔てて目と鼻の先にできたのである。

江戸は武家集団の「軍人社会」で、この機構を賄うため商人や職人たちが働く大消費社会でもある。どこで食糧や日用品を仕入れたか。江戸周辺の隣接地域から集めてくる。このため、江戸周辺の農村地帯は、にわかに脚光を浴びるようになる。年貢収奪の対象地域になった。

川崎の道(路)を調べてみても時の権力に向かって伸びていく。近世には、何本もの道が急激に、しかも見事なまでに江戸に向かって整備される。

以上が川崎を人為的に規制した要素である。

それでは自然的、地理的に川崎を規制した要素は何か。多摩川と多摩丘陵である。

重要な一例として、鎌倉幕府は七つの切り通し(山を切り開いた道)をつくり、鶴岡八幡宮をおき、その回りに武家屋敷を配置して街づくりをした。

川崎は、同幕府にとって、どのような役割をもったか。

多摩川と多摩丘陵という自然の要害・とりでを利用し、この中世都市を外郭で守る防衛ラインの機能を果たさせていたのである。

あじさい寺として有名な妙楽寺が、同幕府の有力なお寺「威光寺」があった場所でもあったことが、この十数年の調査で明らかになっている。それは多摩丘陵の先端部分にある。威光寺が崇敬されたのは宗教的な理由もあったであろうが同幕府の生命線だったからだ。多摩川が京浜工業地帯成立に大きくかかわっていたことは、よく知られている。

多摩川の水をひいて、二ヶ領用水を掘削し、江戸の食糧を賄うことが、同工業地帯として産ぶ声をあげたのは、水上・陸上輸送の便利さなどからだ。

(担当・伊藤てるよ)

編集後記

今年(1992)も残り少なくなりまして▼不況の出口が見えず、軽いボーナスを手に溜め息をした方も多く、さえない年末です▼庶民の嘆きをよそに、億円が闇から闇への「佐川疑惑」▼暴力団まで介在していた疑いが強いとあっては、その解明なくして正月を迎え「おめでとう」という気分にもなれないでしょう▼先日、中原区の渡辺達夫さんから葉書をいただきました▼小誌の内容を評価され「友人、知人に話をしていきますが、意外に知られていないのは残念です」と▼小誌は昨年9月号から、生涯学習情報誌に衣替え▼「いまを話す」は引き続きです。グループ紹介」で、各界でご活躍の方やグループの生き生きとした様子を掲載▼また「心にくる私の一冊」「どくしゃの声」

「学習・文化情報」の投稿欄も▼配布場所は民間のご協力で、広がりまして▼しかし、渡辺さんのご指摘のように小誌が、まだ「よちよち歩き」の段階にあることも事実▼今後とも市民の方々の率直なご意見、ご提言を生かし、より多くの人にご愛読いただける紙面を展開していきたいと考えています。

◆訂正と追加 12月号11頁の「初春の成人学校」を次の通り訂正・追加します。▼岡上分館のストレッチ体操「火曜午後」を「木曜午前」に訂正▼幸文化センターの金曜午後「クレイクラフト」(定員30人)と高津市民館の金曜午後「パンフraw」(同25人)の募集があり追加します。また、高津市民館の金曜午後「日本史」と宮前文化センターの金曜夜間「フランス語」は募集をしていません。

発行 財団法人 川崎市生涯学習振興事業団

〒215 川崎市麻生区万福寺一の二の二 新百合21ビル
電話(044)95215000 FAX(044)9511350
〒210 同市川崎区富士見二の三 教育文化会館一階
電話(044)13311650

同事業団生涯学習情報コーナー

編集人 田中 園

今に伝わる江戸の伝統工芸技くらへ

華職人 Part V

◆1月3日(日)～8日(金)◆6階大催し場



◆同時開催

新春貨幣・切手・テレホンカードまつり

EVENT・新春初笑い寄席

- 1月3日(日)～8日(金)×毎日午後1時・3時開催
 - 3日(日)落語……………喜久亭寿栄
 - 4日(月)江戸紙切り……………桃川 忠
 - 5日(火)モダンジャグラー……………翁家 小和
 - 6日(水)ヴァイオリン演奏……………福岡 詩二
 - 7日(木)江戸女手妻……………松旭斎いく代
 - 8日(金)曲コマ……………やなぎ 女栄
- ※都合により出演者が一部変更になる場合もございます。

1月3日(日)↑階店頭↓大江戸助六太鼓

●午前9時50分・11時・午後1時の3回



さいか屋川崎

〒210 川崎市川崎区小川町1番地
TEL. 044-211-3111



明日をひらくエネルギー
東京電力

あしたもきつとだよ。



深夜電力
温水器

ほしい時に
ほしいお湯

あったかい暮らしに、電気温水器のお湯。

電気温水器テレフォン相談室 ☎ 0120-000910 (無料通話)

〈横浜銀行〉だけの1枚3役、
スーパーカード。



YOKOHAMA
BANK CARD INTERNATIONAL

- ① 海外・国内でショッピング、キャッシング。
- ② 全国の銀行、提携金融機関で、お引き出し。
- ③ 急な出費時には、自動融資で安心便利。

VISA、マスター、JCBの3ブランドからお選びください。

加藤雅也

主役は、**横浜バンクカード。**



お問い合わせ・お申し込みは **横浜銀行** 川崎支店 (044)222-5521 (大代)